

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2025/12/31	2026/4/30	2026/5/15	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	50,339.48	59,284.92	61,409.29	63,799.32	2026/5/14	30,487.67	2023/10/4
NYダウ	ドル	48,063.29	49,652.14	49,526.17	50,512.79	2026/2/10	32,327.20	2023/10/27
円/ドル	円	156.71	156.59	158.74	161.95	2024/7/3	137.25	2023/7/14

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 決算発表の内容を受けて幅広い銘柄に物色が広がりTOPIXは上昇した一方、AI・半導体銘柄への過熱感が意識され日経平均は下落 ~

先週の日本株市場は、日経平均が▲1,304.36円(▲2.08%)、TOPIXが+34.49ポイント(+0.90%)となり、良好な決算を受けて幅広い銘柄に物色が広がりTOPIXは上昇した一方、AI(人工知能)・半導体銘柄への過熱感が意識され日経平均は下落しました。業種別でみると、保険業、卸売業、石油・石炭製品などの22業種が上昇した一方、非鉄金属、機械、不動産業などの11業種が下落しました。

11日は、米国原油先物が1バレル100ドル台まで上昇したことが重荷となったものの、良好な決算を受けてAI・半導体以外の幅広い銘柄に物色が広がったことなどから、上昇しました。12日は、前日の米国株市場でSOX(フィラデルフィア半導体株)指数が最高値を更新したことなどが好感され、続伸しました。13日は、国内企業の決算で市場予想を上回る良好な期初会社計画を示した銘柄に買いが集まったことなどから、3日続伸となりました。14日は、国内10年金利が一時2.6%台半ばまで上昇したことや、AI投資期待から上昇していた主力のAI投資関連銘柄が、市場予想を下回る2026年度の期初会社計画を発表したことなどが嫌気され、4日ぶりに反落しました。15日は、世界的な金利上昇や日銀の利上げ観測の高まりなどを受けて、国内10年金利が2.7%台まで上昇したことなどから、続落して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
5月18日	Mon	中国	鉱工業生産(年初来/前年比)	4月	+6.1%
			小売売上高(年初来/前年比)	4月	+2.4%
5月19日	Tue	日本	GDP(国内総生産)速報値(前期比年率)	1-3月期	+1.3%
5月20日	Wed	米国	FOMC(米連邦公開市場委員会)議事要旨公表(4月28日、29日開催分)		
5月21日	Thu	日本	貿易収支	4月	+6,430億円
			機械受注(船舶・電力を除く民需)(前月比)	3月	+13.6%
			消費者信頼感指数	5月	▲20.6
		欧州	製造業PMI(購買担当者景気指数)	5月	52.2
			サービス業PMI	5月	47.6
			住宅着工件数	4月	+150.2万件
			フィラデルフィア連銀製造業景況指数	5月	26.7
米国	製造業PMI	5月	54.5		
	サービス業PMI	5月	51.0		
	CPI(全国消費者物価指数)(除生鮮/前年比)	4月	+1.8%		
5月22日	Fri	ドイツ	IFO企業景況感指数	5月	84.4

決算発表予定 他	国内	決算発表 :	5/20 東京海上HD、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、信金中央金庫、SOMPOホールディングス
決算発表予定 他	海外	決算発表 :	5/18 百度 5/19 ホーム・デポ 5/20 アナログ・デバイス、ターゲット、エスビディア、インテグロ 5/21 ウォルマート、ワークデイ、テイクツー・インタラクティブ・ソフトウェア、スーム・コミュニケーションズ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 金利上昇への警戒感が上値抑制に働くものの、業績への期待が下支えとなり堅調に推移 ~

今週の日本株市場は、金利上昇への警戒感が上値抑制に働くものの、業績への期待が下支えとなり堅調に推移するとみまます。足元では、イラン戦争の長期化やそれに伴うインフレ高止まりへの警戒感から世界的に金利が上昇する中で、国内金利は財政悪化懸念や日銀の早期追加利上げへの思惑も加わり、長期・超長期ゾーン中心に上昇しています。金利上昇を受けて、これまでの株価上昇を牽引してきたAI・半導体関連銘柄は、バリュエーション面での割高感が意識されやすく、しばらくは上値抑制に働くこととみまます。一方、先週末までにTOPIXに採用されている3月期決算企業の大半が2025年度本決算を終えました。2025年度の業績は、全体では増収増益となり、市場予想を上回る良好な結果となりました。また、2026年度の期初会社計画は慎重な内容が多く見られたものの、総じて増収増益基調が維持されており、イラン戦争を巡る不透明感が強い中でも例年と比べて過度に悲観的な内容でなかったことは株価の下支えに働くこととみまます。週前半は、20日の米大手半導体企業のエヌビディアの決算を控えて様子見姿勢が強まるとみまますが、業績見通しが投資家の期待に沿った内容となれば、関連銘柄中心に堅調さを取り戻すとみまます。その他の注目材料として、日本では19日のGDP、21日の機械受注、米国では20日のFOMC議事要旨、21日の製造業/サービス業PMI、欧州では21日の製造業/サービス業PMI、中国では18日の小売売上高などが挙げられます。

ALAMCO

朝日ライフ アセットマネジメント

URL: <https://www.alamco.co.jp>

商号等 : 朝日ライフ アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会 : 一般社団法人資産運用業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。)が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。